



令和７年度　ふくずみ幼稚園学校評価について

本園では、園の教育や運営等の改善を図ることを目的として自己評価を行っています。この評価活動は、指導の在り方、取り組み方、園としての運営の在り方などを評価することで本園の教育活動を振り返り、次年度の方向性や方策を検討するものです。

今年度の評価結果をまとめましたので保護者の皆様にお知らせいたします。

「教育計画」「指導の重点目標」「保育の在り方」「研修・研鑽・働き甲斐」「保護者との連携」「安全教育」という大きなくくりの中でそれぞれについて４個～９個の評価項目を設定して評価しました。

◇重点目標や教育計画では・・・

本園では、①強くたくましい心と体を育てる　②創造性を高め、情操を豊かにする　③社会性を育て他と協調し合える心を養う　④自立心を育て他人に頼らず自分のことは自分でする　⑤基本的生活習慣を徹底して身につけさせる　の５つのことを重点にして保育活動を行っています。

その中で、成果として以下の点が挙げられます。

〇昨年、緊急避難情報の配信で突然職員の携帯アラームが園内に鳴り響き、地震発生を知らせる状況に際し、子どもたちは、騒ぐことなく地震発生を認識して、自ら「ダンゴムシのポーズ」を作って自分の身体を守りました。放送連絡が入る前に自分たちでこのような行動がとれたことは、年間５回、状況を変え、災害発生時間も変えて実施している避難訓練の成果であると確認しました。日常の積み上げが大切であることを改めて認識した瞬間でした。

◇組織運営では・・・

〇認定こども園への移行を見据えて、令和７年度から園の運営の方法（職員の勤務体系や登降園時のお子さんの受け渡し方法など）を工夫して取り組んでみました。

次年度は２階建ての施設となることも含めて、新たな役割分担や、保護者への連絡方法など、更にきめ細かい情報共有と連携を行う必要性を確認しました。

〇登降園時のお子さんの受け渡し方法では、園内まで送っていただいたり、ホールまで迎えに来ていただいたり保護者の皆様にも御協力いただき令和８年度の登降園の方法を考えることができました。

《今後に向けて》

〇アプリなどのICT機器の導入により負担軽減と効率化を図っていきたいと考えています。

◇保育の在り方や研修では・・・

〇一人ひとりの子どもたちの内面に寄り添う保育の在り方や集団生活を通して心も身体も強くたくましく育てていくための教育内容や教職員の子どもたちへのかかわり方など課題意識や問題意識をもって研修に参加することができました。

〇次年度は乳児を迎えることになるため、誤嚥や事故への対応の仕方を学ぶために救命救急講習を継続して受講し、緊急時の対応の仕方を確認することができました。

●研修で得たことを職場に還元していくための方法に課題を感じています。これまでのような一堂に会しての研修体制がなかなか整えられないことが考えられるため、紙面交流やラインでの周知、連絡ボードの活用など工夫する必要があると考えています。

◇地域・保護者との連携では・・・

〇令和８年度から PTA 組織が無くなります。無くなったことでのデメリットを無くしていくように、これまで以上に保護者とのコミュニケーションを大切にしていきます。お子さんのことで心配なこと（発達、言語、体力面、人間関係など）がある場合には、園での様子を見ていただくことも含めて対応していきます。担任、又は教頭までいつでもご相談ください。

〇幼稚園は集団生活の場です。幼児期の集団生活の場は自立を促したり自律を育んだりすることがとても大切だと考えています。

- 自分でできることを増やす場（自信と意欲）
- みんながそれをやっても大丈夫かを学ぶ場（共生）
- 友達とのトラブルや共通の課題に対して自分たちで相談して解決する力を養う場（共生）
- 友達と一緒だから頑張れる場（競い合い、我慢）

ですからルールや約束が必要となるのです。服装（排泄時に汚れやすいスカートや重ね着など）や降園時の園施設の使用制限（グラウンドで遊ばない、駐車場で遊ばないなど）をお願いしているのも集団生活の場を大切に考えているからです。もちろんお子さんの発達段階や年齢によってかかわり方は違います。しかし、相手を否定するのではなく、気持ちに寄り添いながら子ども自身が考えていく力を身に付けていけるようにするかかわり方は各学年共通です。ぜひ保護者の御理解と御協力をお願いいたします。

令和７年度　自己評価及び学校関係者評価書

令和８年３月４日
ふくずみ幼稚園

１　本年度の重点目標

「自然との触れ合いを通して、豊かな人間性を育む教育活動の推進」
「子ども一人ひとりの良さと可能性を引き出す教育活動の推進」
「教職員が働き甲斐を感じ、子どもが明日も通いたいと思える園の創造」

２　本年度の保育の重点

１．強くたくましい心と体を育てる　　２．創造性を高め情操を豊かにする
３．社会性を育て他と協調し合える心を養う　　４．自立心を育て他人に頼らず自分のことは自分でする子の育成

３　自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標・評価	今年度の重点目標とした園の課題は幼児の実態に合わせ十分に取り組めるものであったか。	A	チャレンジカードの取組、子どもたちが互いに刺激し合える製作物の展示方法、自然物を活用した製作活動その他重点としたことに取り組み、一定の成果を得た。	A	A
	教育目標の実現に向けた園評価のあり方は現在行われている方法でよいか。	A	評価方法も定着し、自分事としての園評価の取組が次年度の教育計画、園運営に生かされている。	A	A
学校関係者評価委員による意見	重点目標への取組は日常の活動をいかに計画的に取り組むかにかかっている。その意味で日常を大切にして積み上げていく実践は大変よい。				
教育指導	幼稚園教育要領にのっとり幼児の発達段階に即した適切な指導がなされたか	B	本園の特色を生かした自然との関わりを大切にした教育活動や図形・数量、文字などに親しむ活動など今後更に工夫が必要である。	A	A
	改善の取組や指導力を向上させるために研修を効果的に進めることができたか	A	認定こども園開園に向け、乳児の誤嚥対応も含めて救命講習を全員で受講した。今後も技能定着に向け継続したい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	前年度の評価・課題を今年度に生かし、自然物を使った製作活動に繋げていく姿勢は素晴らしい。今後も更に工夫改善を図っていただきたい。				
保育重点	育てたい児童像、指導重点などの提示が適切であったか	B	前年度の評価を生かして毎年年度の重点を決めており、今後も職員総意で日常的に意識して教育活動を進めていきたい。	A	A
	提示された項目について適切な指導がなされたか	B	学年研修の充実を図る。全体での確認や相談など工夫をして場を設けられるようにしていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	次年度は認定こども園となるため、乳児の保育の在り方を含め、今まで経験のない取組も生まれると思うが、実践と改善のサイクルを大切にしてよりよいものを目指してほしい。				
安全管理	緊急事態発生時の対応は十分であるか	B	緊急時を想定し、冷静に対応できるようなマニュアルを掲示したり、対応の仕方を毎年確認する場として園内研修に位置付けたりしていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	研修を継続して技能を確かなものにしてほしい。重大事故につながらないように日常の点検や指導を行ってほしい。				
情報提供	園の情報が適切に公開されているか	A	日常的な出来事は子どものお迎え時に連絡できる体制を整えている。今後ともタイムリーな情報発信に努めたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	保護者は園での様子を知りたいものである。そのニーズに応え全体の様子がわかる、個の様子がわかるという二つの面で対応することが望ましい。				
連携	園と地域社会が双方向の連携を図ることができているか	B	幼保小の連携が盛んになっている。コロナ禍で中断されていた地域の老人福祉施設との交流も再開する方向で検討したい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	小学校や地域の施設との連携を図り、地域で子どもを育むようネットワークをつなげていってほしい。				